



見附市南蒲原郡医師会近況

見附市南蒲原郡医師会

理事 貝 瀬

明



前回の新潟県医師会報 第859号以降につき、ご報告します。

2024年9月、関谷医院・関谷又一郎先生が、2025年3月、十字堂医院（耳鼻咽喉科）・泉聰司先生が、惜しまれつつ逝去されました。地域医療に、長年にわたりかけがえのない貢献をされてきた両医院とも、これをもって閉院となったことは、まことに痛恨の極みであります。

振り返れば数年前、働き盛りの2名の小児科医のご逝去、さらに鋭意稼働中の小児科医院が閉院したこと等が相次ぎ、見附市の小児科医療に暗雲が立ち込めていました。まさにそのような時、2023年4月、土屋修一先生が「みつけこどもクリニック」を、さらに2025年7月、高橋貞佳先生が、「たかはしこどもクリニック」を開設されました。まさに天祐というべき朗報であります。

「みつけこどもクリニック」に隣接し、時を同じくし2023年4月、棚橋怜生先生が、内科・糖尿病内科・内分泌内科の「見附たなはしクリニック」を、丸山麻知子先生が、精神科・心療内科の「見附メンタルクリニック」を開設され、隣接敷地内に一挙三件の新進気鋭の医療機関が進出しました。見附市の医療にとって、まさに快挙であります。これら三医院は、原信見附店、ダイソー原信MC見附店、ドラッグトップス見附新町店を擁するマーケットシティに隣接する絶好の立地にあります。

新規開業の先生方には、当医師会では新人であるにも関わらず、早速それぞれ医師会の役職に就いていただき、医師会の重要な諸業務に鋭意参画していただいています。若い先生方の、無尽蔵のエネルギーを感じます。

これら医院の新規開院にあたり、見附市として、新規開業等支援事業を展開されていきました。これが実を結んだわけです。新規開業支援に尽力されました、稲田亮市長はじめ、見附市行政関係者各位に敬意を表します。

見附市でも、既存医療機関の閉院・開設者の変更が、今後も続きます。残された患者様のことを考えますと、医業の引退にあたっては、単に閉院・閉鎖するのではなく、患者様そして診療データを継承してもらえる後継者にバトンタッチし、花道を後にする方策を探りたいものです。

見附市の医療の中核を担う見附市立病院にも心強い人事がありました。2025年4月、形成外科に浅倉辰則先生が、皮膚科に岩井由樹先生が、いずれも常勤医として赴任されました。地域の小規模な病院に、これら両科の常勤医を擁することは、全国的にもあまり例がなく、見附市立病院のこの充実ぶりには、目を見張るものがあります。

見附市南蒲原郡医師会の構成は、2025年8月現在、A会員22名、B会員15名、自宅会員2名、計39名です。新規開業は、前述通り4件です。私が入会した2002（平14）年には、A会員35名、B会員16名、自宅会員3名、計54名でした。多くの地方医師会同様、高齢の会員が休日在宅当番医等のローテーションから外れることが時系列的に生じるため、少ない「働き盛り」医院によって、医師会の諸業務が維持されている現状は、以前と同様です。

引き続き、行政各位には新規開業等支援を継続いただきたく、そして我ら医師会員も、最大限の協力をしてまいります。